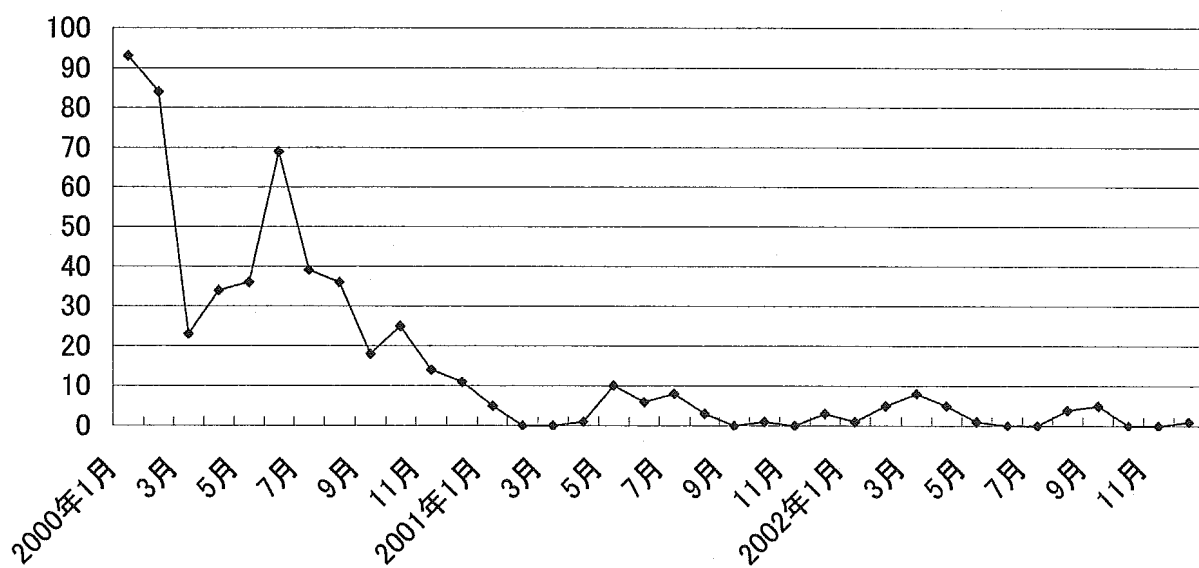


Fig. 5 富山医科薬科大学附属病院における小児科でのボルタレン®サポ 12.5mg (ジクロフェナクナトリウム坐薬)の使用量変化(単位:個、2002年1月~2002年12月)



## 病院医薬品集および医薬品の採用基準などに関するアンケートのお願い

2005年12月20日

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

包括化医療や後発品使用などの動きの中で、病院医薬品集の内容や作成プロセスに対する関心が高まっています。すでに、第6回日本薬剤疫学会学術総会(2000年11月、東京)のシンポジウム「薬を選ぶ一葉籠に何をに入れるか」で、2000年時点での病院医薬品集に関するアンケート調査が報告されました(清水秀行、津谷喜一郎、他、病院医薬品集作成と医薬品採用の現状—日本薬剤疫学会員の所属する112施設の調査—臨床評価2001; 28(3):513-20)。シンポジウムの記録を同封いたしました。

明年、第12回日本薬剤疫学会学術総会(東京)において、シンポジウム「医薬品使用実態調査と医薬品選択」が計画されております。そこでの報告を念頭に入れつつ、第2回のアンケートを実施することになりました。なお、このアンケートは、平成17年度厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「包括化・後発品使用・診療ガイドライン使用の中での安全性確保を指向した医薬品実態調査と病院医薬品集選択の方法論のモデル構築に関する研究」班の協力を得ております。

前回に引き続き今回も、原則的に日本薬剤疫学会員の所属している医療機関を対象とさせていただきますが、その他の特定機能病院も含まれます。アンケートは記入者に薬剤部長(薬局責任者)を想定して作成いたしました。理由は、病院医薬品集および医薬品の採用に多く関与していると考えられるためです。

ご多忙のところ、大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答下さいますようお願い申し上げます。なお、回答しにくい設問はとばして下さって結構です。

アンケートの回収期日は2006年1月15日とさせていただきます。回収方法は、同封の返信用封筒をご使用ください。また、ファックスでの返送でも結構です(fax: 03-5800-8689)。なお、ご返信頂いた施設には、報告書を送付させていただきます。お答え頂いたアンケートは、統計的に処理し、実名や個別データなどを公表することはありません。

また、当該アンケートに関するお問い合わせ先は下記の通りです。

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院薬剤部 草間真紀子  
tel: 03-5800-9446 fax: 03-5800-8689 e-mail: kusamam-pha@h.u-tokyo.ac.jp

敬具

- ・日本薬剤疫学会拡充委員会委員長／東京大学大学院薬学系研究科医薬経済学講座客員教授……………津谷喜一郎
- ・第12回日本薬剤疫学会学術総会会長／東京慈恵会医科大学薬物治療学研究室教授……………景山 茂
- ・平成17年度厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「包括化・後発品使用・診療ガイドライン使用の中での安全性確保を指向した医薬品実態調査と病院医薬品集選択の方法論のモデル構築に関する研究」主任研究者／東京大学医学部附属病院薬剤部長教授……………鈴木洋史

## 病院医薬品集および医薬品の採用基準等に関するアンケート(2005)

### 1. 採用医薬品数

1-1. 貴施設における採用医薬品数をお聞かせ下さい(規格、剤形は別にカウントします)。

- ① 内用薬 (院内\_\_\_\_\_品目、院外\_\_\_\_\_品目)
- ② 外用薬 (院内\_\_\_\_\_品目、院外\_\_\_\_\_品目)
- ③ 注射薬 (院内\_\_\_\_\_品目、院外\_\_\_\_\_品目)

1-2. 上記のうちの、ジェネリック薬(後発品)の採用医薬品数をお聞かせ下さい(規格、剤形は別にカウントします)。

- ① 内用薬 (\_\_\_\_\_品目)
- ② 外用薬 (\_\_\_\_\_品目)
- ③ 注射薬 (\_\_\_\_\_品目)

### 2. 医薬品集・医薬品一覧の作成

2-1. 医薬品集や医薬品一覧などと呼ばれる冊子についてお聞かせ下さい。

- a) 「医薬品集」を作成している  
[ここで医薬品集とは、採用医薬品の名称(商標名、規格含量、剤形を含む)のほかに効能・効果、副作用等の医薬品情報を収載した冊子とします]
- b) 「医薬品一覧」として作成している  
[ここで医薬品一覧とは、採用医薬品の名称(商標名、規格含量、剤形を含む)のみを収載した冊子とします]
- c) 作成していない

2-2. 2-1 で a) あるいは b) を選択された施設の方にお尋ねします。

- ① 作成部数 (\_\_\_\_\_冊)
- ② 1冊の作成単価 (\_\_\_\_\_円/冊)
- ③ どのくらいの時間間隔で作成していますか。
  - a) 毎年
  - b) 隔年
  - c) 不定期
  - d) その他(\_\_\_\_\_)
- ④ 作成に要する労力(印刷・製本以外の作業)について教えてください。
  - a) 外注
  - b) 一部外注 (自前の作業量 薬剤師\_\_\_\_人×\_\_\_\_日)
  - c) 全て自前 (自前の作業量 薬剤師\_\_\_\_人×\_\_\_\_日)
- ⑤ 院内ネットワーク等を利用して薬剤部から医薬品集・医薬品一覧の情報を提供していますか。
  - a) 提供している
  - b) 提供していない

2-3. 2-1 で a) を選択された施設の方にお尋ねします。

① 医薬品集に掲載する医薬品情報のデータソースは何ですか(複数回答可)。

- a) 医療用医薬品添付文書
- b) 『日本医薬品集医療薬(JAPIC)』(冊子)
- c) 『日本医薬品集医療薬(JAPIC)』(CD-ROM)
- d) 厚生労働省のホームページ
- e) 医薬品医療機器総合機構 医薬品医療機器情報提供ホームページ
- f) web データベース(有料) (具体的に: \_\_\_\_\_)
- g) web データベース(無料) (具体的に: \_\_\_\_\_)
- h) その他(\_\_\_\_\_)

② 医薬品情報の他にどのような内容を掲載していますか(複数回答可)。

- a) 医薬品の取扱いに関する院内の規定
- b) 薬剤部業務の利用案内
- c) 各種項目別の医薬品の一覧表(例:ベンゾジアゼピン系薬剤の分類と特性、小児用量一覧等)
- d) 処方可能日数などの保険上の制限
- e) その他(\_\_\_\_\_)

③ 作成のねらい・意図を教えてください(複数回答可)。

- a) 取扱い医薬品の確認
- b) 医薬品の適正使用のための情報の確認
- c) 医薬品情報以外の医薬品に係る院内規定の周知
- d) その他(\_\_\_\_\_)

④ 医薬品情報に変更があった場合の対処方法について教えてください。

- a) 何らかの方法で伝達する
- b) 対応しない

2-4. 2-1 で b)あるいは c)を選択された施設の方にお尋ねします。

① 「医薬品集」を作成していない理由を教えてください。

(\_\_\_\_\_)

### 3. 薬事委員会などの構成と意思決定システム

3-1. 新規採用、採用中止、ジェネリック薬への移行などの審議機関は何ですか。

- a) 薬事委員会  
薬事委員会の長の施設内での役職をお聞かせ下さい。(\_\_\_\_\_)
- b) その他  
具体的に:(\_\_\_\_\_)

3-2. 薬事委員会の開催頻度はどれくらいですか。

- a) 1年に1回
- b) 年4回
- c) 隔月
- d) 毎月
- e) その他(\_\_\_\_\_)

3-3. 1回の薬事委員会の審議時間は平均どれくらいですか。 ( \_\_\_\_\_ 時間)

3-4. 1回の薬事委員会で平均何品目の医薬品について審議されますか。 ( \_\_\_\_\_ 品目)

3-5. 薬事委員会の資料についてお尋ねします。

① 施設として独自に作成していますか。

- a) 作成している
- b) 作成していない

② ①で a) を選択された施設の方にお尋ねします。1品目あたりの作成時間は平均何時間ですか。  
( \_\_\_\_\_ 時間)

③ ①で a) を選択された施設の方にお尋ねします。薬事委員会の資料の作成部署はどこですか。

- a) 薬剤部・薬局
- b) それ以外 (具体的に \_\_\_\_\_)

④ ①で a) を選択された施設の方にお尋ねします。資料作成時に参考とする主な資料は何ですか  
(複数回答可)。

- a) 添付文書
- b) インタビューフォーム
- c) 製品情報概要
- d) 原著論文
- e) 大規模臨床試験・Systematic Review などの論文
- f) 売上、市場シェアに関する情報
- g) a)、b)、c) 以外で、メーカー・卸より入手した資料(比較表など)
- h) その他 ( \_\_\_\_\_)

3-6. 薬事委員会の決定は以下のいずれによりますか。(複数回答可)。

- a) 多数決
- b) 満場一致
- c) その他 ( \_\_\_\_\_)

#### 4. 新規医薬品採用

4-1. 新規医薬品採用の基準についてお聞かせ下さい。

① 基準がありますか。

- a) 文書化された基準がある
- b) 文書化されていないものの基準がある
- c) 基準はない

② ①でa) またはb) を選択された施設の方にお尋ねします。差し支えない範囲で、その基準の項目や内容を教えて下さい。(別紙でもかまいません)

4-2. 新規採用の際には、臨床エビデンスやrisk-benefit 比を評価していますか。

- a) はい
- b) いいえ
- c) 今後取り入れる(検討中)

4-3. 新規採用の際には、薬剤経済分析(費用対効果分析など)をしていますか。

- a) はい(自分で分析している)
- b) はい(分析された論文を使う)
- c) はい(分析された企業資料を使う)
- d) いいえ

4-4. 新薬を採用する際に、以下のような特別な配慮をしていますか(複数回答可)。

- a) 発売後経過期間の制限
- b) 診療科・処方医師の制限
- c) 試用期間の設定
- d) その他 ( \_\_\_\_\_ )

4-5. 採用品目数が一定数を超えないよう措置を講じていますか。

- a) はい、新規採用の場合には、原則的に同種同効薬などを削除します
- b) はい、新規採用の場合には、原則的に同一メーカーの薬を削除します
- c) いいえ
- d) その他 ( \_\_\_\_\_ )

4-6. 薬事委員会の意思決定は何に基づきますか(複数回答可)。

- a) 安全性に関するエビデンス
- b) 有効性(既存薬との比較)に関するエビデンス
- c) 診療ガイドラインに記載される医薬品であること
- d) 価格の高低
- e) 先発品間の薬価差
- f) 薬剤経済分析(費用対効果分析など「効き目」とコストのバランス)
- g) 新規性
- h) 品質・剤形などの適合性
- i) その他 ( \_\_\_\_\_ )

## 5. 採用医薬品のジェネリック薬への移行や採用中止

5-1. 採用医薬品のジェネリック薬への移行や採用中止についてお尋ねします。

① どのように行っていますか。

- a) 定期的に見直しを行なっている
- b) 必要時に見直しを行っている
- c) 見直しは行っていない

② ①で a)あるいは b)を選択された施設の方にお尋ねします。見直しの方法について教えてください。  
( \_\_\_\_\_ )

5-2. ジェネリック薬への移行についてお尋ねします。

① ジェネリック薬への移行が議論されたことはありますか。

- a) はい
- b) いいえ

② ①で a)とお答えになった施設の方にお尋ねします。これまでジェネリック薬に移行した医薬品は何品目ありますか。

( \_\_\_\_\_ 品目)

③ ①で a)とお答えになった施設の方にお尋ねします。ジェネリック薬への移行にあたり、議論されたポイントをお聞かせ下さい(複数回答可)。

- a) 品質
- b) 情報提供
- c) 供給体制
- d) その他 ( \_\_\_\_\_ )

5-3. 包括化(DPC)が進行するにあたってのジェネリック薬について、何かご意見がありましたら、お教え下さい。

5-4. 採用中止(製造・販売中止となった場合を除く)についてお尋ねします。

① 基準がありますか。

- a) 文書化された基準がある
- b) 文書化されていないものの基準がある
- c) 基準はない

② ①でa) またはb) を選択された施設の方にお尋ねします。差し支えない範囲で、その基準の項目や内容を教えて下さい。(別紙でもかまいません)

③ ①で「基準はない」を選択された施設の方にお尋ねします。どのように決められますか。

( \_\_\_\_\_ )

5-5. 施設として採用品目数を減少させようというポリシーはありますか。

a) ある

(何品目まで減少させる目標があれば、具体的な品目数: \_\_\_\_\_)

b) ない

## 6. 処方監査、診療ガイドライン、パス、医薬品使用実態調査 (drug utilization study: DUS) などについて

6-1. 薬剤部の処方監査において、下記項目をどの程度確認していますか。

① 検査値との整合性

a) 全てにおいて確認している

b) 部分的に確認している

c) 殆ど確認していない

d) 病院のシステムで確認している

② 保険病名との整合性

a) 全てにおいて確認している

b) 部分的に確認している

c) 殆ど確認していない

d) 病院のシステムで確認している

③ 薬物間相互作用

a) 同一処方箋内でしか確認していない

b) 同一施設内で発行された処方箋において確認している

c) 病院のシステムで確認している

d) その他( \_\_\_\_\_ )

6-2. 診療ガイドライン(治療ガイドライン)についてお尋ねします。

① 施設として採用していますか。

a) 採用している

b) 採用していない

② ①で a) を選択された施設の方にお尋ねします。

a) いくつの疾患で採用していますか ( \_\_\_\_\_ 疾患)

b) これに沿って薬剤部で処方監査していますか (はい いいえ)



6-3. 診療ガイドラインは医師のどれくらいに使用されていますか(分かる範囲内で教えてください)。

- a) 多くの医師が使用
- b) 半分くらいの医師が使用
- c) 少ない医師が使用
- d) 誰も使用していない
- e) わからない

6-4. クリティカル・パス(クリニカル・パス、ケア・マップ、ケア・パスなどを含む)を施設として採用していますか。

① 採用している

- a) いくつの疾患で採用していますか ( \_\_\_\_\_ 疾患)
- b) 医薬品を含むものはありますか (はい いいえ)

② 採用していない

6-5. 医薬品使用実態調査(drug utilization study: DUS)についてお尋ねします。

① 実施したことがありますか。

- a) 実施している
- b) 実施していない

② ①で a) を選択された施設の方にお尋ねします。その時の計量単位は何でしたか。

- a) 価格
- b) 数量
- c) 処方件数、処方せん枚数
- d) ATC/DDD または、ATC/PDD
- e) その他( \_\_\_\_\_ )

6-6. 日本医療機能評価機構(JCQHC)による病院機能評価を受けたことはありますか(ちなみに、薬剤部門では以下の基準があります: 薬剤部門の体制の確立、薬剤の適切な保管・管理、適切な調剤、適切な薬剤供給、薬剤情報の適切な提供、薬剤業務の改善する仕組の存在)。

- a) 評価を受けたことがある
- b) 評価を受けたことがない

## 7. 施設プロフィール

7-1. 病院・施設の経営主体をお聞かせ下さい。

- a) 国 (厚生労働省、文部科学省、労働者健康福祉機構、逓信病院、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、その他の機関)
- b) 公的医療機関 (都道府県、市町村、日赤、済生会、厚生連、国民健康保険団体連合会)
- c) 社会保険関係団体 (全国社会保険協会連合会、厚生年金事業振興団、船員保険会健康保険組合およびその連合会、共済組合およびその連合会、国民健康保険組合)
- d) 医療法人
- e) その他の法人 (公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社)
- f) 個人
- g) その他 (上記以外)



## アンケート送付先施設一覧

北海道大学病院	大阪市立大学医学部附属病院	東京都老人医療センター
旭川医科大学医学部附属病院	奈良県立医科大学附属病院	榊原記念病院
弘前大学医学部附属病院	和歌山県立医科大学附属病院	多摩北部医療センター
東北大学病院	岩手医科大学医学部附属病院	永寿会恩方病院
秋田大学医学部附属病院	自治医科大学附属病院	都立清瀬小児病院
山形大学医学部附属病院	獨協医科大学病院	日本医科大学付属多摩永山病院
筑波大学医学部附属病院	埼玉医科大学病院	新横浜ソーワクリニック
防衛医科大学校病院	埼玉医科大学総合医療センター	横浜労災病院
群馬大学医学部附属病院	東京女子医科大学大学病院	日本医療伝道会総合病院衣笠病院
千葉大学医学部附属病院	北里大学病院	国際親善総合病院
東京大学医学部附属病院	北里大学東病院	市川市リハビリテーション病院
東京医科歯科大学医学部附属病院	杏林大学医学部附属病院	船橋二和病院
新潟大学医歯学総合病院	慶應義塾大学病院	市立柏病院
金沢大学医学部附属病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	旭中央病院
山梨大学医学部附属病院	昭和大学医学部附属病院	亀田総合病院
信州大学医学部附属病院	帝京大学医学部附属病院	白百合会大多喜病院
岐阜大学医学部附属病院	帝京大学医学部附属市原病院	埼玉協同病院
名古屋大学医学部附属病院	東海大学医学部附属病院	東大宮総合病院
三重大学医学部附属病院	東京医科大学病院	獨協医科大学越谷病院
京都大学医学部附属病院	東京慈恵会医科大学附属病院	佐久総合病院
大阪大学医学部附属病院	国際医療福祉大学附属三田病院	飯田市立病院
神戸大学医学部附属病院	東邦大学医療センター大森病院	フジ虎ノ門整形外科病院
鳥取大学医学部附属病院	日本大学医学部附属板橋病院	聖隷三方原病院
岡山大学医学部・歯学部附属病院	日本医科大学附属病院	春日井市民病院
岡山大学医学部附属病院	聖マリアンナ医科大学病院	蘇西厚生会松波総合病院
三朝医療センター	金沢医科大学病院	三重中央医療センター
広島大学病院	愛知医科大学附属病院	明和会琵琶湖病院
山口大学医学部附属病院	藤田保健衛生大学病院	たかもと共立診療所
徳島大学病院	大阪医科大学附属病院	はしもと診療所
愛媛大学医学部附属病院	関西医科大学附属病院	大阪府立成人病センター
九州大学病院	近畿大学医学部附属病院	育和会記念病院
長崎大学医学部・歯学部附属病院	兵庫医科大学病院	西淀病院
熊本大学医学部附属病院	川崎医科大学附属病院	高槻赤十字病院
鹿児島大学病院	久留米大学病院	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
琉球大学医学部附属病院	福岡大学病院	和泉市立病院
浜松医科大学医学部附属病院	産業医科大学病院	公立南丹病院
滋賀医科大学医学部附属病院	国立がんセンター中央病院	西神戸医療センター
宮崎大学医学部附属病院	国立循環器病センター	県立尼崎病院
富山大学附属病院	市公立横手病院	岩国市医療センター医師会病院
島根大学医学部附属病院	旭山病院	大内胃腸科眼科医院
高知大学医学部附属病院	東京証券業健康保険組合診療所	市立宇和島病院
佐賀大学医学部附属病院	聖路加国際病院	新日鉄八幡記念病院
大分大学医学部附属病院	東京都済生会中央病院	今津赤十字病院
福井大学医学部附属病院	東京北社会保険病院	芳和会くわみず病院
香川大学医学部附属病院	財団法人癌研究会有明病院	金沢社会保険病院
札幌医科大学附属病院	NTT 東日本関東病院	富山通信病院
福島県立医科大学附属病院	東京労災病院	太田西ノ内病院
横浜市立大学医学部附属病院	厚生中央病院	
名古屋市立大学医学部附属病院	中野共立病院	
京都府立医科大学附属病院	関野臨床薬理クリニック	

## II. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌 (Journal) 1年目 (平成15年度)

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	川上純一	EBM (エビデンスをつくる、 つたえる、つかう) と薬剤 師の役割: Personal Drugと EBM	医薬ジャーナ ル	39(2)	794-799	2003
2	内田英二	知っておくべき新しい診療 理念: パーソナルドラッグ	日本医師会雑 誌	131(1)	72-73	2004
3	山之内恒昭、永田佳恵、 川尻憲行、三村泰彦、 川上純一、足立伊佐雄	富山医科薬科大学における モルヒネ製剤の使用状況	薬学雑誌	124(1)	13-18	2004
4	渡邊裕司、津谷喜一郎、 大橋京一、内田英二、 熊谷雄治、川上純一	インフォーミング・ジャッ ジメント: 日本語訳にあた って	薬理と治療	31(6)	459-460	2003
5	渡邊裕司、津谷喜一郎 (訳)	イントロダクション: 6つの ケーススタディからのレッ スン	薬理と治療	31(6)	463-467	2003
6	津谷喜一郎、菊田健太郎 (訳)	医薬品の選択におけるエビ デンスの使用: オーストラ リアの医薬品給付システム (PBS)	薬理と治療	31(7)	615-628	2003
7	津谷喜一郎、菊田健太郎 (訳)	オーストラリアのケースス タディのアップデート	薬理と治療	31(8)	693-696	2003
8	大橋京一 (訳)	ポリシーサイクルへの研究 の応用: ブリティッシュコ ロンビア州におけるエビデ ンスにもとづく医薬品ポリ シーの実行と評価	薬理と治療	31(8)	697-719	2003
9	内田英二 (訳)	カイザー保険の全国統合糖 尿病ケア管理プログラム	薬理と治療	31(9)	777-804	2003

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
10	渡邊裕司 (訳)	ブループリスクリプション (転換期におけるプログラム)	薬理と治療	31(10)	887-901	2003
11	熊谷雄治 (訳)	NICEとNHSによるリレンザの保険給付	薬理と治療	31(11)	993-1014	2003
12	川上純一 (訳)	南アフリカ共和国におけるHIV母子感染の抑止	薬理と治療	31(12)	1049-1062	2003
13	津谷喜一郎	エッセンシャル・ドラッグとパーソナル・ドラッグ：公開セミナーの背景と趣旨	薬理と治療	32(2)	99-105	2004
14	渡邊裕司	「EBMに基づいた必須医薬品リスト選定のガイドライン作成に関する調査研究」班活動について	薬理と治療	32(2)	107-111	2004
15	内田英二	P-drugの日本での展開	薬理と治療	32(2)	113-116	2004
16	川上純一	薬学におけるp-drug教育	薬理と治療	32(2)	117-122	2004
17	津谷喜一郎 (訳)	WHOエッセンシャル・ドラッグ・モデルリストは先進国において意味があるか	薬理と治療	32(2)	123-134	2004
18	津谷喜一郎 (訳)	欧州における医薬品の価格設定と償還	薬理と治療	31(10)	819-836	2003
19	津谷喜一郎	エビデンスを調べる：systematic reviewの現状	臨床薬理	34(4)	210-216	2003

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
20	川上純一	エビデンスを伝える： 薬剤師の立場から	臨床薬理	34(4)	217-222	2003
21	渡邊裕司	エビデンスを使う： 循環器領域－臨床決断とエビデンス－	臨床薬理	34(4)	223-227	2003
22	津谷喜一郎、菊田健太郎	厚生労働省科学研究費補助 事業による20の診療ガイド ラインがカバーする医療費 の推計	臨床薬理	35(1)	140S	2004
23	後藤真寿美、内田信也、 渡邊裕司、中野眞汎、 大橋京一	浜松医科大学附属病院にお けるHMG-CoA還元酵素阻 害薬の使用実態調査	臨床薬理	35(1)	162S	2004

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍 (Book) 2年目 (平成16年度)

	著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
1	内田英二	パーソナルドラッグ	橋本信也	知っておくべき 新しい診療理念	日本医師会	東京	2005	66-67
2	熊谷雄治	A.必須薬の考え方	宮岡等	精神科 必須薬 を探る	中外医学社	東京	2004	1-10
3	津谷喜一郎	EBMにおけるエビデ ンスの吟味	池田康夫, 内山真一郎, 小川久雄, 他	抗血栓療法トラ イアルガイド	ライフサイエンス 出版	東京	2004	1089 - 1090
4	津谷喜一郎, 内田英二	はじめに	津谷喜一郎, 内田英二	くすりとエビデ ンス 「つくる」+「つ たえる」	中山書店	東京	2005	iii-x i
5	内田英二	民族による違い	津谷喜一郎, 内田英二	くすりとエビデ ンス 「つくる」+「つ たえる」	中山書店	東京	2005	43-49
6	内田英二	ゲノム薬理学	津谷喜一郎, 内田英二	くすりとエビデ ンス 「つくる」+「つ たえる」	中山書店	東京	2005	50-57
7	緒方映子, 山田安彦, 伊賀立二	DI活動	津谷喜一郎, 内田英二	くすりとエビデ ンス 「つくる」+「つ たえる」	中山書店	東京	2005	153-161
8	熊谷雄治, 渡邊裕司	診療ガイドラインと くすり	津谷喜一郎, 内田英二	くすりとエビデ ンス 「つくる」+「つ たえる」	中山書店	東京	2005	208-215



研究成果の刊行に関する一覧表

雑 誌 (Journal) 2年目 (平成16年度)

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Tsutani K	Pharmacoeconomics in decision making - The Japanese experience	<i>Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology</i>	31 (S)	Addendum	2004
2	Igarashi A, <u>Tsutani K</u> , Fukuda T, Shinfuku N, Fujii S	Price difference of antipsychotic drugs in Asia	<i>Pharmacoepidemiology and Drug Safety</i>	13 (S)	S77-78	2004
3	Takayanagi R, Watanabe K, Nakahara A, Nakahara H, Yamada Y, <u>Suzuki H</u> , Arakawa Y, Omata M and <u>Iga T</u>	Items of concern associated with source document verification of clinical trials for new drugs	<i>Yakugaku Zasshi</i>	124 (2)	89-92	2004
4	Takayanagi R, Nakamura Y, Nakajima Y, Shimizu A, Nakamura H, Yamada Y, <u>Suzuki H</u> , Arakawa Y, Omata M and <u>Iga T</u>	Analysis of information submitted by clinical trial sponsors regarding the safety of investigational drugs	<i>Yakugaku Zasshi</i>	124 (4)	225-229	2004
5	Miyazaki N, Sekine Y, Aoyama T, Yasuno N, Nakamura H, Yamada Y and <u>Iga T</u>	Development and evaluation of pharmaceutical services in the ICU/CCU by medical staffs	<i>Yakugaku Zasshi</i>	124 (5)	279-286	2004
6	内田英二	エビデンスをつかう①： 医師にとってのパーソナル ドラッグ (P-drug)	EBMジャーナル	5 (6)	106-109	2004
7	川上純一	エビデンスをつかう②： 薬剤師にとってのパーソナル ドラッグ (P-drug)	EBMジャーナル	6 (1)	102-106	2005
8	内田直樹, <u>内田英二</u>	適応外医薬品を考える： 臨床薬理学の立場から	医薬ジャーナル	40 (7)	82-85	2004

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
9	椿あづみ, 本多秀俊, 青山隆夫, 平井優美, 矢作直樹, 中村均, 鈴木洋史	病棟における注射薬投与に 関するリスクマネジメント ー外科系HCUにおける常駐 薬剤師の役割ー	医薬ジャーナ ル	40 (12)	167-172	2004
10	影山恵美子, 折井孝男, <u>伊賀立二</u>	医薬品等の回収情報に関す る調査・研究(第3報)ー 市立宇和島病院における医 薬品等の回収情報の有用性 ー	医療薬学	30 (2)	113-120	2004
11	村中直子, 藤田美奈, 川上由紀子, 小松朋美, 山田安彦, 中村均, 青山 隆夫, 山田八重子, 新家 眞, <u>伊賀立二</u>	緑内障患者における投与禁 忌薬の使用実態と適正使用	医療薬学	30 (4)	276-279	2004
12	大野能之, 草間真紀子, 伊藤愛美, 高柳理早, 高山和郎, 青山隆夫, 中村 均, 鈴木洋史, <u>伊賀立二</u>	薬剤管理指導業務における 副作用モニタリングの標準 化と監査の試みー 糖尿病 代謝内科および腎臓内分泌 内科病棟においてー	医療薬学	30 (12)	794-803	2004
13	<u>内田英二</u> , 長嶋悟	臨床試験の登録と公開: ポジティブ、ネガティブを 含めて	JAMA(日本語 版)	10月号	60-61	2004
14	小滝 一, 福田直子, <u>伊賀立二</u>	セロトニン・ノルアドレナ リン再取り込み阻害薬の副 作用・相互作用ー最近の報 告ー	精神科治療学	19 (1)	128-130	2004
15	小滝 一, 福田直子, <u>伊賀立二</u>	セロトニン作動薬の副作 用・相互作用ー最近の報告 ー	精神科治療学	19 (2)	262-264	2004
16	小滝 一, 福田直子, <u>伊賀立二</u>	Lithium の副作用・相互作用 ー最近の報告ー	精神科治療学	19 (3)	403-405	2004
17	高柳理早, <u>伊賀立二</u>	ベンゾジアゼピン系薬剤の 高齢者に対する使用上の注 意	治療学	38 (7)	142-144	2004

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
18	菊田健太郎, 津谷喜一郎	疾患別年間医療費に占める 薬剤費 - Cost of Illness in Japan(CIJ)プロジェクトより -	日本医療薬学 会会報	8 (1)	3-8	2004
19	北條泰輔	医薬関係者による副作用等 情報報告制度	日病薬誌	41 (4)	377-381	2005
20	津谷喜一郎	医療経済学からみた脳卒中 予防の重要性 - アスピリン の果たす役割 -	Bayer Cross	9	3-7	2004
21	白岩健, 津谷喜一郎	日本における医薬品使用実 態調査の現状	薬剤疫学	9 (S)	S56-S57	2004
22	菊田健太郎, 津谷喜一郎	OECD Health Dataを用いた 薬剤費の国際比較の留意点	薬剤疫学	9 (S)	S60-S61	2004
23	伊賀立二	医療薬剤学に基づく院内製 剤の開発と薬剤の適正使用 法の構築に関する研究	薬剤学	64 (4)	219-222	2004
24	川上純一	DPCに基づく包括評価と ジェネリック医薬品	薬剤学	65 (1)	13-18	2005
25	内田英二, 梅村和夫, 平山謙二, 光石忠敬	IRBの役割とあり方を考え る (座談会)	薬事日報	第9965号 (2004.9.10)	12-16	2004
26	津谷喜一郎	エッセンシャル・ドラッグ とパーソナル・ドラッグ: 公開セミナーの背景と趣旨	薬理と治療	32 (2)	99-105	2004
27	渡邊裕司	エッセンシャル・ドラッグ とパーソナル・ドラッグ: 「EBMに基づいた必須医薬 品リスト選定のガイドライ ン作成に関する調査研究」 班活動について	薬理と治療	32 (2)	107-111	2004

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
28	内田英二	エッセンシャル・ドラッグ とパーソナル・ドラッグ： P-drugの日本での展開	薬理と治療	32 (2)	113-116	2004
29	川上純一	エッセンシャル・ドラッグ とパーソナル・ドラッグ： 薬学におけるP-drug教育	薬理と治療	32 (2)	117-122	2004
30	大橋京一, <u>津谷喜一郎</u>	エッセンシャル・ドラッグ とパーソナル・ドラッグ： パネルディスカッション	薬理と治療	32 (3)	179-182	2004
31	<u>津谷喜一郎</u> , 福井次矢, <u>渡邊裕司</u>	1999年から2002年にかけて のEssential Drugをめぐる動 き (座談会)	薬理と治療	32 (3)	185-198	2004
32	大野能之, <u>伊賀立二</u>	臨床の現場で： 医薬品副作用と対応の仕方	臨床医	30 (4)	442-444	2004
33	渡邊裕司, 川上純一	我が国における Essential Medicineを考える	臨床医薬	20 (4)	383	2004
34	渡邊裕司	はじめに—臨床薬理学と Essential Medicineの概念—	臨床医薬	20 (4)	384-388	2004
35	熊谷雄治	エビデンスに基づく診療ガ イドラインと Essential Medicine	臨床医薬	20 (4)	395-400	2004
36	川上純一	Essential Medicineと欧州諸 国における医薬品制度の現 状	臨床医薬	20 (4)	401-412	2004